

## 平成28年度香川大学大学院入学式 学長告辞

本日、香川大学大学院に入学される279名の皆さん、誠におめでとうございます。

本入学式に列席している理事、副学長、研究科長及び教職員とともに、皆さんの入学を心から歓迎いたします。

今年度から、教育学研究科に新たに教職大学院である高度教職実践専攻を設置し、また、医学系研究科の博士課程を新しい専攻に改組し、入学生を受け入れています。本日は新しく生まれ変わった香川大学が第一歩を踏み出す記念すべき日であります。

今、皆さんはどのような思いでこの日を迎えられるのでしょうか。研究者としての一歩を踏み出すべく強い志しを持って臨んでいる方、新しい学問の世界に胸躍らせている方など、皆それぞれに大学院生活に対する思いを持っていることと思います。

皆さんがこれから日々の学修及び研究を行うこ

ととなる大学院は学部とは違い、より高度で専門性を持った教育、研究を行うところです。学部教育で培った知識や経験などの基盤を活かして、自らが課題を見つけ、その解決に向けて、ひたすら真摯に探求を続けることが強く求められるようになります。そしてそれらを通して、“深い学識”と“卓越した能力”を培うことができるのです。

少し私の話をしましょう。約40年前になりますが、私は脳神経外科を専門としていました。日本ではスタートしたばかりの講座で、研究を指導する専門の教員もいない時代で、今のようにインターネットで論文が検索できることも当然ありません。

研究テーマも自分たちで考え、とにかく仲間と討論し、新しいアイデアを出し合っては実験を繰り返し、その結果について深夜、ときには朝方まで討議する、まさに寝食を忘れ、生活のすべてを研究に費やしたものです。

そうするうちに、研究が進み、専門知識も深まっていき、物事を客観的に見る力や、評価・判断力な

どが備わってくるようになりました。この素養は私が臨床医になってからも随分役に立ちました。分野は異なっても、事象や結果を客観的に見る力、自ら判断する力を持つということは非常に重要なことであり、これができるか否かで、後に飛躍する可能性が大きく違ってきます。

大学院の期間はとても短く、無駄にできる時間は全くありません。指導教員や仲間を信じて、とにかく自分の持つすべてをつぎ込んでください。

失敗を恐れる必要はありません。誰でも失敗はつきものです。失敗や挫折を繰り返し、そしていつか真理にたどり着くことができるのです。またそれと同時に、いつも成功しようと思ってもいけません。むしろ成功することの方が稀なことかもしれません。成功への飽くなきチャレンジ精神こそ大切であり、あきらめず前向きにチャレンジしてほしいと願っています。

一方で、近年は科学者の研究不正の問題も少な

らず聞かれ、国民から不審を招く事態も生じています。不正や虚偽といった行為は科学の根幹も揺るがしかねません。成功を急ぐあまり、不正を行うということは全くの本末転倒です。

「無知を恐れるな、偽りの知識を恐れよ。」

“パスカルの原理”で有名な17世紀の科学者、ブлез・パスカルの言葉です。皆さんはぜひ誠実に、そして真摯に学修及び研究に取り組んでください。

本日、香川大学大学院に入学された皆さんが、この大学院生活で深い学識と卓越した能力を身につけ、夢と希望と大きな自信を持って、将来、社会をリードし、活躍されることを心から期待し、告示いたします。

平成28年4月4日

香川大学長 長尾 省吾